



2018年11月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2018年10月3日
上場取引所 東

上場会社名 株式会社エスプール
 コード番号 2471 URL <http://www.spool.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長 (氏名) 浦上 壮平
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部担当 (氏名) 佐藤 英朗 TEL 03-6859-5599
 四半期報告書提出予定日 2018年10月10日
 配当支払開始予定日 -
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2018年11月期第3四半期の連結業績（2017年12月1日～2018年8月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2018年11月期第3四半期	10,701	28.8	699	78.8	703	78.7	437	83.0
2017年11月期第3四半期	8,308	25.5	391	11.6	393	15.2	239	△13.7

(注) 包括利益 2018年11月期第3四半期 437百万円 (82.8%) 2017年11月期第3四半期 239百万円 (△13.5%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2018年11月期第3四半期	27.75	27.69
2017年11月期第3四半期	15.53	15.18

(注) 当社は、2018年3月1日付で普通株式1株につき5株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「1株当たり四半期純利益」及び「潜在株式調整後1株当たり四半期純利益」を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2018年11月期第3四半期	5,166	1,850	35.7	116.75
2017年11月期	4,493	1,473	32.5	92.54

(参考) 自己資本 2018年11月期第3四半期 1,842百万円 2017年11月期 1,459百万円

(注) 当社は、2018年3月1日付で普通株式1株につき5株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「1株当たり純資産」を算定しております。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2017年11月期	-	0.00	-	18.00	18.00
2018年11月期	-	0.00	-	-	-
2018年11月期（予想）	-	-	-	5.00	5.00

(注) 1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

2. 当社は、2018年3月1日付で普通株式1株につき5株の割合で株式分割を行っております。2017年11月期については、当該株式分割前の実際の配当金の額を記載しております。

3. 2018年11月期の連結業績予想（2017年12月1日～2018年11月30日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	13,587	16.2	814	20.7	802	16.7	468	10.7	29.70

(注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

2. 当社は、2018年3月1日付で普通株式1株につき5株の割合で株式分割を行っております。2018年11月期の連結業績予想における1株当たり当期純利益については、当該株式分割の影響を考慮しております。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2018年11月期3Q	15,780,500株	2017年11月期	15,767,000株
② 期末自己株式数	2018年11月期3Q	692株	2017年11月期	645株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2018年11月期3Q	15,775,516株	2017年11月期3Q	15,408,113株

(注) 当社は、2018年3月1日付で普通株式1株につき5株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「期末発行済株式数」、「期末自己株式数」及び「期中平均株式数」を算定しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的と判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料の「1. 当四半期決算に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間のわが国経済は、米中の貿易摩擦など世界経済に対する懸念点はあるものの、半導体関連を中心に製造業の設備投資が堅調で国内景気については緩やかな拡張傾向が続いております。一方で、雇用情勢については引き続き企業からの求人数が高止まりしており、厚生労働省が発表した2018年7月の全国の有効求人倍率は1.63倍と、1974年1月の1.64倍以来およそ44年ぶりの高水準で推移しております。従来から人手不足感の強いサービス業に加え、製造業や建設業でも求人が増加してきております。また、総務省が発表した7月の完全失業率も2.5%と低い水準を維持しており、完全雇用に近い状態にあります。

当社グループにおいても、このような雇用情勢を背景に人材派遣サービスが引き続き順調に拡大したほか、障がい者雇用支援サービスの売上についても大きく伸長しております。一方、損益面においては、事業規模拡大に伴って人件費を中心に販売費及び一般管理費が増加したものの、前述の増収効果により営業利益が増加しております。なお、当連結会計年度においては、環境変化に強いバランスの取れたポートフォリオ経営の推進のために、①安定した収益基盤の構築、②新たな収益機会の獲得、③多様な働き方と生産性向上の実現の3点を基本方針として事業を推進していく所存であります。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は10,701百万円（前年同四半期比28.8%増）、営業利益は699百万円（前年同四半期比78.8%増）、経常利益は703百万円（前年同四半期比78.7%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は437百万円（前年同四半期比83.0%増）となりました。

2018年11月期第3四半期連結累計期間 連結業績

(単位：百万円)	2017年11月期 第3四半期	2018年11月期 第3四半期	増減率
売上高	8,308	10,701	28.8%
営業損益	391	699	78.8%
経常損益	393	703	78.7%
親会社株主に帰属する 四半期純損益	239	437	83.0%

当第3四半期連結累計期間のセグメント業績（セグメント間内部取引消去前）は以下のとおりであります。

①ビジネスソリューション事業

ビジネスソリューション事業では、シニアや障がい者など潜在労働力の活用を支援するサービスや、企業の業務の一部を受託するアウトソーシングサービスを提供しています。前者においては、株式会社エスプールプラスが、障がい者雇用を希望する企業に同社が運営する農園を貸し出し、主に知的障がい者を企業が直接雇用し、収穫した野菜を従業員の健康促進に役立てる福利厚生プログラムの提供を行っています。また、株式会社エスプールでは、様々な経験やノウハウを有するシニアを、企業の経営課題や業務課題の解決に役立てるプロフェッショナル人材サービスを提供しています。

後者のアウトソーシングサービスでは、株式会社エスプールロジスティクスが、通販企業の商品の発送代行サービスや海外販売を支援する越境ECサービスを提供しています。また、株式会社エスプールセールスサポートでは、対面型の会員獲得や加入促進等のセールスプロモーション業務、キャンペーンやラウンダー等の販売促進業務を行っています。その他、株式会社エスプールでは、主にアルバイトやパートの採用募集に対する応募者対応を代行する採用代行支援サービスを行っております。

当第3四半期連結累計期間においては、2017年11月末に撤退したスマートメーター設置業務の売上がなくなりましたが、障がい者雇用支援サービス等が好調に推移した結果、売上を大きく伸ばしております。障がい者雇用支援サービスについては、2018年4月の障害者雇用促進法改正をきっかけに農園の新規参画が大きく伸びたほか、継続収入となる農園利用料が順調に増加しました。また、ロジスティクスアウトソーシングサービスでは、発送代行サービスの売上が堅調に推移しました。一方で、損益面では、新たに開設した品川物流センターの収益化に遅れが生じておりますが、相対的に利益率の高い障がい者雇用支援サービスの増収効果によりセグメントの営業利益率は改善しました。その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は3,176百万円（前年同四半期比16.4%増）、営業利益は579百万円（前年同四半期比40.1%増）となりました。

②人材ソリューション事業

人材ソリューション事業は、人材派遣、人材紹介サービスを主力とする株式会社エスプールヒューマンソリューションズが提供するサービスで、コールセンターや事務センター等のオフィスサポート業務と、スマートフォンや家電製品等の店頭販売支援業務に関する人材サービスを展開しております。

当第3四半期連結累計期間においては、前述の通り企業の人材不足感がより一層強まっており、主力のコールセンター業務において、未経験者の即戦力化に長けたグループ型派遣サービスの売上が北海道や九州など地方を中心に大きく増加しました。損益面においては、社会保険料負担の増加等により売上総利益率が若干低下したほか、拠点数の増加や業容拡大に対応した組織面の強化により人件費を中心に販売費及び一般管理費が増加しておりますが、増収効果により営業利益は増加しました。その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は7,585百万円（前年同四半期比35.5%増）、営業利益は756百万円（前年同四半期比48.0%増）となりました。

2018年11月期第3四半期連結累計期間 セグメント別業績

売上高（単位：百万円）	2017年11月期 第3四半期	2018年11月期 第3四半期	増減率
報告セグメント	8,324	10,762	29.3%
ビジネスソリューション事業	2,728	3,176	16.4%
人材ソリューション事業	5,596	7,585	35.5%
調整額	△16	△61	－%
合計	8,308	10,701	28.8%

営業利益（単位：百万円）	2017年11月期 第3四半期	2018年11月期 第3四半期	増減率
報告セグメント	924	1,335	44.5%
ビジネスソリューション事業	413	579	40.1%
人材ソリューション事業	511	756	48.0%
調整額	△533	△636	－%
合計	391	699	78.8%

(2) 財政状態に関する説明

①資産

当第3四半期連結会計期間末の流動資産は、前連結会計年度末から145百万円増加し、3,114百万円となりました。人材ソリューション事業を中心とする売上の増加により売上債権が306百万円増加しておりますが、一方で障がい者雇用支援事業の農園建設を中心とした投資活動による支出等により、現金及び預金が115百万円、繰延税金資産の減少により流動資産のその他が42百万円、それぞれ減少しております。

当第3四半期連結会計期間末の固定資産は、前連結会計年度末から526百万円増加し、2,051百万円となりました。障がい者雇用支援サービス拡大のため、株式会社エスプールプラスにて柏第二ファームやちば花見川ファーム等の新規農園の建設やあいち豊明農園等の既存農園の増設をしております。また、株式会社エスプールのロジスティクスにて新たに品川物流センターを開設しており、有形固定資産が462百万円増加しております。さらに、人材ソリューション事業の地方拠点拡充に伴う敷金及び保証金の増加により投資その他の資産のその他が55百万円増加しております。

②負債

当第3四半期連結会計期間末の流動負債は、前連結会計年度末から235百万円増加し、2,931百万円となりました。前述の投資活動による支出等に備えて短期借入金を200百万円借り増しております。また、業容拡大に伴って未払給与を中心とする未払費用が147百万円増加しております。

当第3四半期連結会計期間末の固定負債は、前連結会計年度末から60百万円増加し、384百万円となりました。約定弁済により長期借入金が50百万円減少し、一方で農園の新規建設等により資産除去債務が90百万円増加しております。

③純資産

当第3四半期連結会計期間末の純資産は、親会社株主に帰属する四半期純利益により437百万円増加し、一方、第18期期末配当により56百万円減少し、1,850百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第3四半期連結累計期間につきましては、主力の人材派遣サービス及び障がい者雇用支援サービスが牽引した結果、堅調に推移しております。また、今後につきましてもこれら主力サービスを中心に好調を維持することを見込んでおりますが、現時点では通期業績予想の修正を要しない水準で進捗していることから、2018年1月11日に公表いたしました2018年11月期通期連結業績予想については、変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2017年11月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2018年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,240	1,125
受取手形及び売掛金	1,565	1,872
商品	18	15
その他	144	102
貸倒引当金	△0	△0
流動資産合計	2,969	3,114
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,026	1,431
その他(純額)	209	266
有形固定資産合計	1,235	1,698
無形固定資産	60	67
投資その他の資産		
その他	243	299
貸倒引当金	△15	△13
投資その他の資産合計	228	285
固定資産合計	1,524	2,051
資産合計	4,493	5,166
負債の部		
流動負債		
買掛金	106	134
短期借入金	900	1,100
1年内返済予定の長期借入金	141	86
未払法人税等	131	141
未払費用	764	912
賞与引当金	72	26
役員賞与引当金	18	—
その他	560	530
流動負債合計	2,695	2,931
固定負債		
長期借入金	103	53
資産除去債務	196	287
その他	23	43
固定負債合計	324	384
負債合計	3,019	3,315
純資産の部		
株主資本		
資本金	366	368
資本剰余金	216	218
利益剰余金	875	1,256
自己株式	△0	△0
株主資本合計	1,459	1,842
新株予約権	14	8
純資産合計	1,473	1,850
負債純資産合計	4,493	5,166

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2016年12月1日 至 2017年8月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2017年12月1日 至 2018年8月31日)
売上高	8,308	10,701
売上原価	6,041	7,849
売上総利益	2,266	2,851
販売費及び一般管理費	1,875	2,151
営業利益	391	699
営業外収益		
受取利息	0	0
助成金収入	6	8
その他	1	0
営業外収益合計	8	9
営業外費用		
支払利息	5	4
持分法による投資損失	0	—
その他	0	0
営業外費用合計	5	5
経常利益	393	703
特別利益		
違約金収入	27	—
新株予約権戻入益	—	4
特別利益合計	27	4
特別損失		
固定資産除却損	4	19
損害賠償金	14	—
特別損失合計	19	19
税金等調整前四半期純利益	401	688
法人税、住民税及び事業税	83	210
法人税等調整額	78	40
法人税等合計	162	250
四半期純利益	239	437
親会社株主に帰属する四半期純利益	239	437

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2016年12月1日 至 2017年8月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2017年12月1日 至 2018年8月31日)
四半期純利益	239	437
その他の包括利益		
持分法適用会社に対する持分相当額	0	—
その他の包括利益合計	0	—
四半期包括利益	239	437
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	239	437
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間(自2016年12月1日至2017年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ビジネスソリューション事業	人材ソリューション事業	計		
売上高					
(1) 外部顧客への売上高	2,723	5,584	8,308	—	8,308
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	4	12	16	△16	—
計	2,728	5,596	8,324	△16	8,308
セグメント利益	413	511	924	△533	391

(注) 1. セグメント利益の調整額△533百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用△534百万円及びセグメント間取引消去1百万円であります。全社費用は、当社の管理部門に係わる費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自2017年12月1日至2018年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ビジネスソリューション事業	人材ソリューション事業	計		
売上高					
(1) 外部顧客への売上高	3,128	7,572	10,701	—	10,701
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	48	12	61	△61	—
計	3,176	7,585	10,762	△61	10,701
セグメント利益	579	756	1,335	△636	699

(注) 1. セグメント利益の調整額△636百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用△597百万円及びセグメント間取引消去△38百万円であります。全社費用は、当社の管理部門に係わる費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。